

令和6年3月5日

各位

〒047-0007 北海道小樽市港町7-2

株式会社北日本消毒

代表取締役 湊 亨

お問い合わせ先 DX推進部

電話：0134-29-3143

デジタルトランスフォーメーション戦略の改定に関するお知らせ

弊社、株式会社北日本消毒はデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」）戦略を改定いたしましたので、お知らせいたします。

1. 経営戦略

現在、北海道において急速な人口減少と少子化高齢化が課題となっております。弊社が所在する後志・小樽地域においても、これらに対応したまちづくりが求められています。

弊社は1982年の創業以来、地元の皆様の安心・安全の実現のために業務に邁進してまいりました。微力ではありますが地元のまちづくりに関わらせていただいております。

人口減少と過疎化という地域課題に対応するためには、①**業務効率化**（限られた人手による的確な業務遂行）と②**人材養成**（地域のまちづくりを担う若い世代）が必要となります。

弊社としましてはこの①業務効率化と②人材養成を行うためにDXへ積極的に取り組むことを決定いたしました。詳細は後述のとおりとなります。これらの施策により、今後も継続して地域に貢献してまいります決意です。

また、お客様ニーズを鑑みても、昨今のデジタル技術の進歩により、非対面等の柔軟な対応や時間を問わない迅速な対応が求められています。

このデジタル社会において、弊社は新たに下記ビジョンを掲げてまいります。

～いつでもすぐそばで「早く何とかしてほしい」に応える“爆速”対応カンパニー～

今すぐ困っていることへ、どこよりも早いレスポンス、かつ丁寧に対応することでお客様に選ばれる企業を目指してまいります。

2. DX戦略

北日本消毒では以下の3つの事業を柱にDX推進を図ってまいります。

（1）現場の進捗管理／プロジェクト管理の効率化：

これまで紙（アナログ）で行ってございました業務の進捗管理と報告を、DX実現後はスタッフのiPad上から行ってまいります。お客様のもとで報告が完了するため、事務所で資料作成をする時間

を削減できる他、報告ミス・連絡ミスでお客様に御迷惑をおかけする可能性自体をなくし、お客様に貢献してまいります。

(2) 業務工程と工数の「見える化」:

お客様のご依頼からお見積書を発行するまでの間、お客様のもとに何度か伺うこととなります。その流れの中には雑用作業に関わる時間が多く潜んでいることが予想されます。DX 実現によりこの雑用作業にかかっている時間を計測することで業務の無駄を洗い出していきます。

結果、お客様をおまたせすることなく迅速なサービス提供・問題解決を図れる組織にしてまいります。

(3) 見積もり作業の効率化・高速化:

これまでは正確を期するあまりお見積もり依頼があった際も実際に訪問し調査するまでは概算額をお伝えすることができていませんでした。DX 実現後はたとえば駆除する害虫ごとにフォームを作っておき、質問項目を埋めていく形で見積書の概算を迅速に出せるようにするなどのスピード対応を実現していきます。それによりお客様の利便性向上に努めます。

具体的には下記①～④を実行いたします。

①現場の進捗管理／プロジェクト管理の効率化:

これまで紙ベースで対応していた業務進捗管理表をデジタル化するとともに、業務進捗管理表とスケジューラーの連携を図ります。具体的には進捗管理表に次回訪問日程を書くと自動的にスケジューラーに反映されるなどの業務改善に努めます。

他にも人工知能 (AI) の活用により衛生管理業務の分析レポートを迅速に発行できるようにいたします。

②業務工程と工数の「見える化」:

スタッフが使用する PC・iPad にプログラムをインストールし、現在の作業にかかっている時間を計測します。それにより従業員スキルの可視化を図り、適時社内研修を行うことで人材養成を行ってまいります。

③見積もり作業の効率化・高速化:

専用フォームを作成し、お見積もり依頼があった際その場で概算額をお示しできるようにします。

④データ活用の効率化:

弊社にて承っております定期点検衛生管理業務・物件管理・備品在庫管理・受発注のデジタル化による業務効率化を進め、予防保全サービスの拡充へも活かしてまいります。

3. DX 推進のための環境整備

現在、紙での運用が主体となっているため、DX 推進チーム主導でシステムを見直し、新たなビジネスモデルに最適な基幹システムへの刷新もしくは SaaS の導入・連携を検討していきます。また、既存システムのさらなる活用も目指していきます。

(デジタル技術の活用)

①現場の進捗管理／プロジェクト管理の効率化

- ・ Google ワークスペース
- ・ chat work

②業務工程と工数の「見える化」

- ・ draw.io
- ・ Looker Studio

③見積もり作業の効率化・高速化

④データ活用の効率化

- ①②との連携を考えながら、最適なシステムを検討してまいります。

(整備・運用プロジェクト)

段階的なシステム導入の利便性を上げるため、DX 推進チーム主導でポータルサイト構築プロジェクトを発足しております。サイト構築後は従業員がポータルサイトを活用するための勉強会を継続的に実施してまいります。

4. DX 戦略達成度を測る指標

戦略の達成度を図る指標として次のものを検討しております。

(1) 1人あたり売上高：

スタッフ1人あたりの売上高を計測することで業務効率化の推進度合いを計測します。

(2) 業務1件あたりのバックヤード時間：

報告資料作りやスケジューリングにかかっている時間を計測し、DX 実現によりどれくらい短縮が見られるかを分析していきます。

(3) クレーム・ミス発生件数：

DX 実現によりこれらの数値がどれだけ減少したかを計測します。

(4) お見積もり作業にかかる時間の計測：

DX 実現によりどれだけ短縮したかを計測します。

(5) お問い合わせから初回対応にいたる時間の計測：

お問い合わせから初回対応にいたるまでの時間が DX 実現でどれだけ短縮したかを計測します。

5. DX 戦略の推進体制

これまで弊社では社内環境を改善するため、次の 2 つのチームを運営してまいりました。

1)現場チーム

6 名

2)事務所チーム

3 名

これらのチームでは社内のモノの整理・整頓を行ってきています。グループリーダーを決めて課題抽出を行い、社内の問題解決をチーム内で実施してきました。ほかにも、報告書などのアナログの情報の整理・整頓も実施してきています。

これらの 2 つのチームに以下のチームを追加することで DX 実現を図ります。

3)DX 推進チーム

5 名（メンバーの重複あり）

実務執行総括責任者：湊（代表取締役）

これまでは情報の整理・整頓において紙などアナログを用いた手法で対応してきました。現状ではその限界が出てきています。そのためこれまで紙ベースで情報管理をしていた仕様をそのまま使えるような形でのアプリ／システム開発を行うことで業務効率化・人材育成を図ります。

推進においては DX 推進チーム内で勉強会を開き、外部のコンサルタントを招き入れる形で弊社の状況にあった情報管理の方法や管理アプリ／ポータルサイト作成を行っていきます。

地元である後志・小樽地域における DX 推進のモデル企業となれるよう今後も粉骨砕身の思いで取り組んでまいります。

以上です。